

# 危機管理士の講演会・セミナー活動

危機管理士 1 級の澤目国弘さんが、東北電力八戸火力発電所にて「危機管理セミナー」を行いました。

## ●危機に対し、数少ない情報の中で最悪を想定しつつ、ときに決断しなければならない。そのため常日頃からリスク対応が必要である



①セミナー前半は「民間企業における危機管理」と題し、2006 年 6 月に起きた「雪印乳業の食中毒事件」を例に取り上げ、「過去の事故事例を分析する事は、そこから様々な教訓を得る事ができる。」と講演されました。

当時の雪印乳業の責任部門長が直面したさまざまな意思決定場面を具体的に切り取り、「この場合皆さんはどのように対応しますか？」と参加者の声も取り上げながら、「私(危機管理士)であればこのように対応します」とお話しされました。

「責任者は危機に対し、数少ない情報の中で自分のイメージした最悪を想定しつつ対応を迫られ、ときに決断しなければならない。そのため常日頃からリスク対応が必要である。」とお話しされました。

②セミナー後半は「リスク評価」をテーマに、「民間企業における課題～多様な危機への対応」についてワークショップ形式で進められました。グループワークでは「自身の職場のリスクを4象限に分類する」ことからスタートし、他の自治体や大学生が以前に行ったリスク集計の結果も参考にしながら、「最重要リスクの抽出→対応施策の決定→達成目標の決定」と導き、その後各グループの発表を行いました。



## ●総括 体制は常に進化していかなければならない

「『リスク評価』を行うことが次の『戦略計画』の一部になり、その戦略計画も定期的に見直しを行うことが必要である。またその実施要領である『危機対応システム』を構築し、そのシステムにより研修や訓練を実施してリスクに対する被害をゼロ、もしくはできるだけ軽減する。リスクがなくなったらまた新たなリスク評価を実施する…これを繰り返していくことが『体制作り』となり、体制は常に進化していかなければならない。」と締めくくられました。



澤目国弘(さわめ・くにひろ)さん

2016 年 2 月に危機管理士 1 級を取得。

現在、青森県八戸市の防災安全部防災危機管理課で、危機管理対策専門員として活躍しておられます。